

発言通告書（総括表）

平成27年 第3回 定例会 代表質問

| NO | 発 言 者 | 発 言 事 項 | 発 言 要 旨 | 答 弁 を 求 め る 者 |
|----|--------------|---|---|------------------------|
| 1 | 松本議員 (自民) | 1 災害対策について 2 オリンピック・パラリンピックについて 3 保育所代替園庭の整備について 4 平成26年度決算と今後の財政運営について | ○複合災害への対策について ○都区の防災連携について ○今回の東京大会の大義について ○機運醸成のための取り組みについて ○オリンピック・パラリンピック教育の現状と今後の展望について ○区民要望と整備について ○今後の整備の方向性について ○平成26年度の予算執行における取り組み姿勢と今後の財政運営について ○定期監査結果報告書における指摘事項について | 区長及び 関係理事者 |
| 2 | 林議員 (千代田) | 1. ソロモンの偽証と九段中等教育学校 2. 教育と文化のまち千代田区宣言と麴町小学校の図書室 3. 風ぐるまと迷惑電話チェッカー 4. (改定) 第3次千代田区基本計画と「めざすべき5年後の姿」の達成度 | ・教育委員会との関係 ・入学者数と卒業生徒数の差異 ・校長・副校長の役割と現状認識 ・平成25年区長選挙の公約との関係 ・公共施設適正配置構想前と現在 ・学校図書室の位置づけは？ ・風ぐるまの新ルートと今後 ・区の対策について ・区の迷惑電話の被害額 ・平成26年度決算との関係 ・5カ年計画の検証は、どこで… ・長期計画の扱いについて | 区長、教育長 並びに 関係理事者 |

発言通告書（総括表）

平成27年 第3回 定例会 代表質問

| NO | 発言者 | 発言事項 | 発言要旨 | 答弁を 求める者 |
|----|--------------|--|---|-----------------|
| 3 | 木村議員 (共産) | <p>1、戦争法（安保法制）について</p> <p>2、マイナンバー制度について</p> <p>3、住宅基本計画（素案）について</p> | <p>①戦争法は立憲主義、平和主義、民主主義を土台から壊すもの。今後、地方自治体は「日本以外の国に対する武力攻撃への対処行動」として後方支援を求められることになる。廃止を求めるべきと思うが区長の所見は</p> <p>②6月と7月の二度にわたり、子どもたちの情報を自衛隊に閲覧させた区の対応は、区民の信頼を大きく裏切る行為。自衛隊による「適齢者情報の提供」依頼に対する区の今後の対応を問う。</p> <p>多くの区民が不安を抱いているのが特定個人情報の漏えいである。区の対応等を問う。</p> <p>①特定個人情報保護評価について</p> <p>②個人情報保護条例について</p> <p>③国民の圧倒的多数が懸念を表明する同制度は中止するよう国に働きかけよ</p> <p>①党区議団が独自に実施した「アンケート」に多くの居住者が不安をのべている。借上げ型区民住宅制度の「借上げ契約満了をもって終了」という区の方針をまず撤回し、そのあり方を区民とともに検討する協議を始めよ。</p> <p>②開発協力金は区民の居住権を守る方向で拡充を</p> <p>③区営住宅の間口を狭める「見直し」は居住権を脅かす。申込み対象をひろげ、それに見合った供給計画を</p> | 区長及び 関係理事者 |
| 4 | 小枝議員 (声) | 1、千代田区における文化学習 団体の育成について | 千代田区は、町会など古くからの地域団体がしっかりと息づいている一方で、転入者には新たな近所づきあいを形成しにくい側面もある。身近な文化サークルの存在は、地域で新たな関係を形成するのに有効であるが、区の団体育成支援予算は縮小、区内文化団体も減っている。新住民急増中の今こそ、身近な場で趣味などを通して世代を超えて豊かに関わり合える機会を創出し、孤立しない豊かなコミュニティーづくりにもっと力を注ぐべきではないか。区の現状認識と意向を問う。 | 区長ならびに 関係理事者 |

発言通告書（総括表）

平成27年 第3回 定例会 代表質問

| NO | 発 言 者 | 発 言 事 項 | 発 言 要 旨 | 答 弁 を 求 め る 者 |
|----|--------------|--|---|-----------------|
| 4 | 小枝議員 (声) | 2、千代田区参画・協働ガイドラインについて 3、子ども教育オンブズパーソンの設置について | <p>昨年4月に発表された「ガイドライン」を住民との協働によってバージョンアップするお考えはないか。また、現在進行中の公共施設更新等について、生活者住民の視点から、どのような進め方をすべきか、区の見解を問う。</p> <p>保健福祉オンブズパーソンが発足して14年、中立公正な立場で問題の改善に役立っているが、児童館保育園のみの適用で、学校は対象外である。いじめ、不登校、自殺、虐待、発達障がいなど、子どもが置かれている環境は、組織の内部だけでは処理できない事態を発生させうる。子どもの目線にたち、かつ公正中立の第三者機関である「子ども教育オンブズパーソン」は学校現場にとっても有効な救済改善機関になりうる。設置についての見解を伺う。</p> | 区長ならびに 関係理事者 |
| 5 | 大串議員 (公明) | 1) クラウドファンディングについて 2) 幸福度調査について | <p>クラウドファンディングの特徴は、旧来の寄付金や補助金に頼る事業姿勢からより主体的にまた自立した事業への転換にある。そこで、</p> <p>① クラウドファンディングについて基本的な考え方を問う。</p> <p>② 行政の行っている寄付金事業や補助金事業において、クラウドの方が良い事業は。</p> <p>③ 区として、クラウドファンディングを行う際の基準を設け、仕組みを作り（例えばFAAVO ちよだ）、広く区民を始め大学や事業者、ボランティア団体などから企画や提案を募集してはどうか。</p> <p>① 幸福度調査の意義と有効性について</p> <p>② 千代田区版幸福度調査の実施を提案する。所見は。</p> | 区長並びに 関係理事者 |